

CITY OF DESIGN KOBE 2017-18

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008



デザインで作るまちの魅力

デザイン都市・神戸 2017年度の取り組み



幸せな日常、ワクワクした毎日をデザインする デザイン都市・神戸

1868年の開港以降、「ひと」「情報」「もの」を広く海外から受け入れてきた神戸。特色ある神戸文化は、これらが融合することで生まれてきました。山と海に囲まれた自然に富んだ「まちなみ」、外来文化を積極的に受け入れる開放的で自由な気風・風土が作り出した「くらしの文化」、ケミカルシューズ・洋菓子・真珠などに代表される「ものづくりの技術」など、都市として誇れる

素晴らしい資源や魅力が生まれました。1995年の「阪神・淡路大震災」からの復興の過程でも、人の絆や助け合いの素晴らしさに触れることができました。脈々と受け継がれてきた豊かな感性や創造力は、まさに神戸のDNA。それを生かすデザインの力が、人への思いやりと未来への力となって神戸の復興を支えたのです。デザインには人々をひきつけ、心を動かす力があ

ります。たとえば、地域の資源を生かした観光振興や、魅力ある景観づくり、産業の振興にデザインの力は不可欠です。また、毎日の暮らしの中で、環境・防災・防犯・福祉・教育といった私たちの身近な事柄に潜む課題を見えやすくすること、伝わりやすくすること、さらにはこれらに思いをめぐらし行動を起こさせること、これもデザインの大切な役割です。ちょっと便利に、少しやさしく、もっと楽しく、ずっと幸せに。人はみな、素晴らしい創造力を持っています。その創造力は、教育・文化・芸術などによって育まれます。創造力に基づく一人ひとりの行動は、自らの心豊かなくらしと社会の活性化をもたらすで

しょう。わたしたちは、こうした過程を大切にす
る都市の空気や、価値観を市内外に広く共有して
いきたいと考えています。2008年10月16
日、神戸市は、それまでの取り組みとそのビジョ
ンが認められ、ユネスコ創造都市ネットワーク
の「デザイン都市」に認定されました。市民自ら
が幸せを実感でき、都市としても成長し続ける。
そんな「デザイン都市」を目指しています。

上、神戸グラフィックデザインコンペ最優秀作品
左下、ちびっこうべ学校 photo©Jotaro Sakashita
中下、連節バス試験運行
右下、ファーマーズマーケット



神戸市民であることを誇りに思う気持ち BE KOBE

「震災20年 神戸からのメッセージ発信」プロ
ジェクトをきっかけに生まれた「BE KOBE」。
たくさんの市民からいただいた「神戸の様々な
魅力の中で、いちばんの魅力は人である」とい
う思いを集約したメッセージとして生まれました。
2017年4月には、神戸開港150年を記念し
て明るく生まれ変わったメリケンパークに、

「BE KOBE」をかたどったモニュメントを設置
しました。神戸の新たな観光スポットとしてたく
さんの人が訪れ賑わいを見せています。若者が
挑戦し生き生きと活躍する神戸をつくりあげて
いくために、「BE KOBE」を、シビックプライド
の「メッセージ」として、今後も広く発信してい
きます。



市民を巻き込み、都市の可能性を拡張する クロスメディアイベント「078」

世代や分野の壁を超え、市民・クリエイター・エンジニアなどが集まり交流することで、新たな神戸の価値を創り上げていく参加型のクロスメディアイベント「078」が、2017年5月6日・7日、初めて開催されました。中心となる分野は音楽・映画・ファッション・IT・食・子どもの6分野。芝生での映画上映や家族みんなで楽しめる野外ロック・テクノライブ、分野を横断した最先端の

カンファレンスなど、これからの市民生活をみんなで考え、みんなで変えていく。そんな創造性にあふれた実験イベントとなりました。

上. 野外ライブ
左下. 芝生での映画上映
中下. 最先端テクノロジーのカンファレンス
右下. スイミープロジェクト

デザインのチカラで 都市や市民生活に新たな魅力を生み出す 「デザイン都市・神戸」創造会議

神戸市の施策や事業、方針等について、各分野で先進的な活動を行う有識者や専門家がデザインの視点で横断的・具体的に意見や提案を行う会議「デザイン都市・神戸」創造会議。この会議から様々なプロジェクトが生まれました。その一つが、2017年11月4日に開催された「瀬戸内経済文化圏OPEN SUMMIT」です。瀬戸内圏

域の10の地域からクリエイターやアーティストが神戸に集まりました。各地域での取り組みを共有するとともに、未来を見据え、瀬戸内経済文化圏や地方都市の発展に必要なネットワークのあり方、「デザイン都市・神戸」の果たす役割等について考え、エリア全体の活性化について議論しました。





遠浅化と健全化をめざす

須磨海岸のグランドデザイン

須磨海岸では、2017年5月に西エリアのJR須磨駅前海岸の遠浅化と海沿いの遊歩道や浜辺のトイレ新設工事が完了しました。運び入れた砂が流出しないよう沖合の海底に「潜堤」という堤防を設けるなど、砂を入れる工事に一工夫し海岸の遠浅化を実現しました。子どもたちが安心して泳げるエリアが拡大。砂浜の面積が広がったことで、ビーチバレーやビーチテニスが楽

しめるスポーツゾーンもできました。また、日本で初めて海岸に下水道を整備し、海の家シャワーやトイレの排水も下水処理できるようになりました。こうしたハード整備に合わせて、適正に管理し健全化をはかるため、須磨海水浴場開設区域を港湾施設(緑地・海浜)として位置づけ、「須磨海岸を守り育てる条例」の一部改正を行い施行しました。今後は、須磨海浜水族園周

辺の東エリアにおいても再整備を進め、四季を通じて賑わいのある須磨海岸をデザインしていきます。



左上.須磨海岸初の潮干狩り
右上.夕暮れの遊歩道
下.新設されたトイレ

築80年を越える歴史的建築物が甦る

御影公会堂リニューアル

1933年に旧御影町の公会堂として建設された御影公会堂。船体をイメージしたデザインなどが特徴で文化的価値の高い集会施設として、長く市民に親しまれてきました。築80年を経過し老朽化が進んだため1年間かけて大規模な改修を実施。2017年4月10日にリニューアルオープンしました。昭和初期の外観に近づけるために、焼く温度などを変えたレンガを組み合わせるなど随所に工夫が施されています。市民に愛されてきたそのたまたまは、「神戸らしい眺望景観50選」にも選ばれています。



六甲山の間伐材を使ったベンチテーブル

神戸市役所1号館1階市民ロビーリニューアル



より明るく、より広々と。2017年10月、神戸市役所1号館1階西側にある市民ロビーをリニューアルしました。設計は(株)中村竜治建築設計事務所が行いました。六甲山系の間伐材を中心に11種類の樹種を使用した温かみのあるベンチテーブル。サイズや形状はさまざまですが、高さを統一することで、まるで水面に浮かんだ木の葉のような印象です。開放的な空間は、待ち合わせやコーヒーを片手に休憩する人々でいつも賑わっています。



公共空間を市民にひらく①
東遊園地を都心の憩いの場に
アーバンピクニック

東遊園地に賑わいをつくるために、2016年に引き続き、芝生広場を活用する社会実験「アーバンピクニック」を実施しました。カフェ、青空図書館「アウトドアライブラリー」、ヨガ教室や工作体験など市民からの声で実現したプログラムのほか、芝生コンサートやワインピクニックなど、期間中110以上の多彩なプログラムを開催しました。また、みんなの声や想いを再整備に活かし、未来の東遊園地をつくっていくために、特設ホームページ「みんなの声でつくる東遊園地再整備プロジェクト」を開発。アンケートなどを通じ市民のさまざまな意見を伺いながら、再整備基本計画の検討を進めました。

左.アーバンピクニック
右.パビリオン photo©Kazuya Yamawaki



公共空間を市民にひらく②
神戸の農産物・生産者に出会える週末
ファーマーズマーケット

地産地消のライフスタイルをすすめるプラットフォーム「EAT LOCAL KOBE」。東遊園地で開催している「ファーマーズマーケット」は、一年を通じて消費者と生産者がダイレクトにつながる場として人気を集めています。2017年5月には、人通りの多い大丸神戸店東側のストリートでもこのマーケットを展開。「農」のイメージがあまりない神戸にも沢山おいしい農水産物があることを、多くの市民に知ってもらい食べてもらう良い機会になりました。



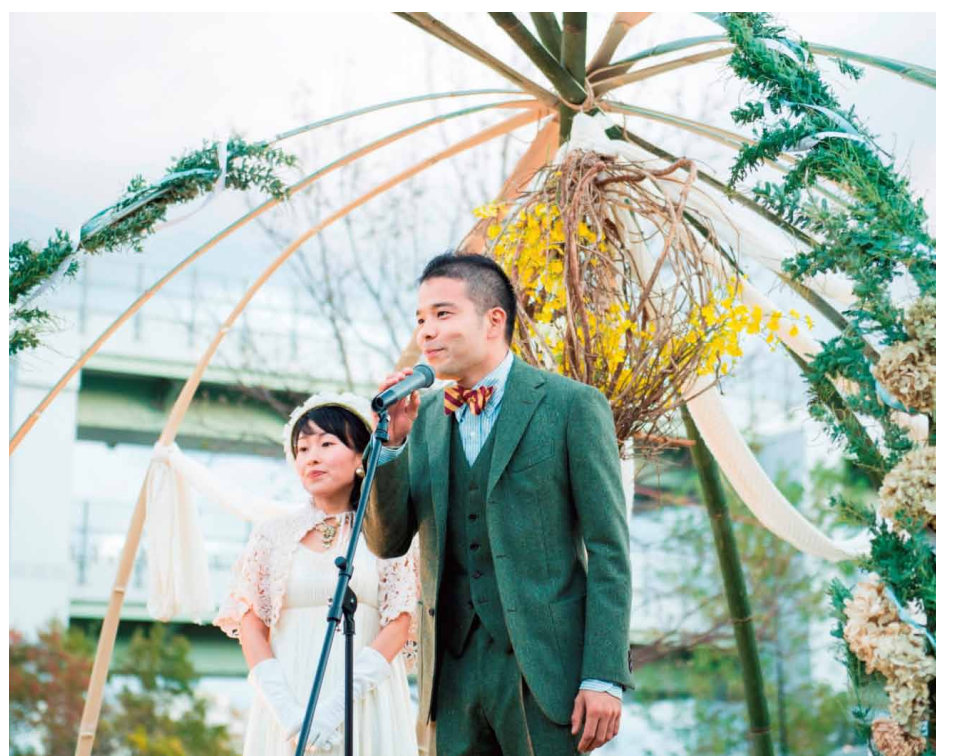
公共空間を市民にひらく③
車道に憩いの場を
KOBEパークレット

「KOBEパークレット」は、車道の停車帯スペースにウッドデッキを敷き、ベンチやテーブルを並べて市民の憩いの場にしていこうという社会実験です。2016年秋より三宮中央通り3ヵ所に設置してきましたが、2018年3月には京町筋の神戸市立博物館前にも展開。旧居留地の景観に馴染むようにデザインされ、新たな「まちなか拠点」として期待されています。

公共空間を市民にひらく④
公園の幸せな使い方
パークウエディング

美しい芝生を活かした手作り結婚式に、移動型の教会を使った珍しい結婚式。「みなとのもり公園」を舞台にオリジナル結婚式が開催され、公園利用者にも新郎新婦を祝福いただきました。これは、市内のホテルや結婚式場が連携して市内挙式を促す「KOBE WEDDING」キャンペーンの一環。神戸での結婚式に憧れをもってもらえるよう「KOBE WEDDING」をアピールしました。

左.移動型の教会を使った結婚式
photo©KATACHI PHOTO PROJECT
右. TEAMクラブトン主催の手作り結婚式
photo©片岡杏子





都市交通をデザインする①
高齢者の移動をサポート
 自動運転移動サービスの実証実験

ニュータウンでは、人口減少や少子・高齢化、施設の老朽化などによるオールドタウン化が進んでいます。高齢者の移動手段の確保が課題になっており、自動運転をはじめとするICTの活用を模索してきました。北区筑紫が丘では、2017年11月から12月にかけて、産学官民協働で移動サービスの実証実験を行いました。最寄り

バス停～商店～病院などのラストマイルにおいて、低速走行の有人自動運転車両を使用。地域住民が一定期間体験することによって、用途や利用者数の確認のほか、自動運転の関連技術の検証も実施しました。この実験で得られたデータは、住民の移動課題や地域課題の解決、市民サービスの向上などに活用していきます。

都市交通をデザインする②
LRT・BRT導入の可能性を探る
 連節バス試験運行

まちの回遊性や魅力を高める交通手段として、また神戸空港への新たなアクセスとして期待される公共交通システム(LRT・BRT)。その導入の可能性を探るために、連節バス運行の社会

実験を実施しました。2017年7月、5日間の実験期間中には約3,000人の乗車があり、利用者からは快適性や利便性などにおいて高評価をいただきました。



都市交通をデザインする③
交通事故を減らす新たな試みがスタート
 ラウンドアバウト交差点

2017年12月、兵庫県警察との連携のもと、県内初となるラウンドアバウト(環状交差点)がポートアイランドでスタートしました。欧州発祥のラウンドアバウトは、車両が通行するエリアが環状になっている、信号のない交差点。信号がないことで、交差点における待ち時間や車両・歩行者双方の交通事故が減少。さらには加速の程度を抑制することで、排出ガスや騒音の減少にもつながると、期待されています。



まちをデザインするプロポーザル①
ウォーターフロントエリアへの玄関口
 JR元町駅東口まちなか拠点整備

JR元町駅前を、待ち合わせや休憩などができる「まちなか拠点」にしていこうと、整備イメージを広く募集しました。応募総数47件。その中から山本修大さんほか3名の神戸大学生グループの提案が最優秀賞に決定。「六甲の稜線」と「みなとの泊」をイメージした階段状のベンチを整備することで、人の流れを誘う空間の提案でした。回遊の拠点となる道、歩いて楽しい道、都市の魅力を発信する道へ、神戸市はさまざまな発想で道路空間の活用をすすめています。



まちをデザインするプロポーザル②
三宮中央通りににぎわいを
 三宮プラッツ

三宮中央通り駐車場に隣接する半地下の広場「三宮プラッツ」では、「にぎわい」と「いこい」の空間を目指し、屋根の設置や階段の拡幅などを基本とする改修設計のプロポーザルを実施しました。20名の建築家からプレゼンテーションがあり、(株)畑友洋建築設計事務所の提案が採用されました。屋根は三宮プラッツの活動を映し出す鏡面仕上げ、多面形状により音響反射板としても機能し、夜間イベント時は照明で広場と階段を照らすことで、万華鏡のように輝く提案になっています。2019年には、まちの新たなにぎわい空間として生まれ変わる予定です。





まちをデザインするプロポーザル③

登山客が集うレストスペース

六甲山最高峰トイレの整備

六甲山の活性化と環境整備。その一環として、六甲山の最高峰にあるトイレを、利用者の利便性・快適性を備えたトイレに再整備するため、設計者選定のプロポーザルを実施しました。応募総数32点の中から選ばれた株式会社ofaの提案は、建物の形体や広場が周囲の風景と調

和した提案であること、木材利用においても創意工夫が期待できることが評価されました。

設計 ofa/小原賢一+深川礼子

市民に愛されて60年

花時計植替え500回記念

1957年4月に神戸市役所庁舎(現2号館)の完成にあわせて始まった神戸市の花時計が60周年と植替え500回を迎えました。これを記念して「神戸の花時計にふさわしい」デザインを募集、66点の応募がありました。選考の結果、「神戸といえは」が神戸市長賞(1作品)に。特別賞として、(公財)神戸市公園緑化協会賞(1作品)、佳作(5作品)を決定しました。2018年3月には、神戸市長賞の図案を用いて500回目の植替えを行いました。



上.神戸市長賞 清水 千晴さん
下.500回目の植替えがされた花時計



夜の賑わいをつくるライトアップ

夜間景観の整備

夜間景観向上の重点地区として設定されているフラワーロード、旧居留地、ハーバーランドなどの7地区。中でもフラワーロードでは、通りのシンボルである「花」「緑」「彫刻」をライトアップし、「光のミュージアム」をテーマに道路空間を整備中です。現在、国際会館付近からフェリーターミナルまでが完成。樹木や彫刻に合わせて

灯りの角度調整を行うなど、形状の違う草花や彫刻がそれぞれ美しく見えるよう工夫しています。美しい夜間景観をつくることは、神戸の都市景観を考える上で重要なポイントの一つ。魅力的な夜間景観を形成することで、地域の個性や賑わいが生まれ、産業や文化のさらなる振興を目指しています。

神戸の魅力を切り"撮る"

フォトジェニック KOBE

神戸には、六甲の山なみ、海や港を背景に広がるまちなみ、田園風景などフォトジェニックなポイントがたくさんあります。そんな魅力的な風景を自分のストーリーを思い描きながら切り"撮る"写真学校「フォトジェニック KOBE」。元町〜メリケンパーク周辺を参加頂いたみなさんと実際に歩きながら、テーマに沿った写真撮影を行いました。



市民がデザインしたマンホール蓋が道路を彩る

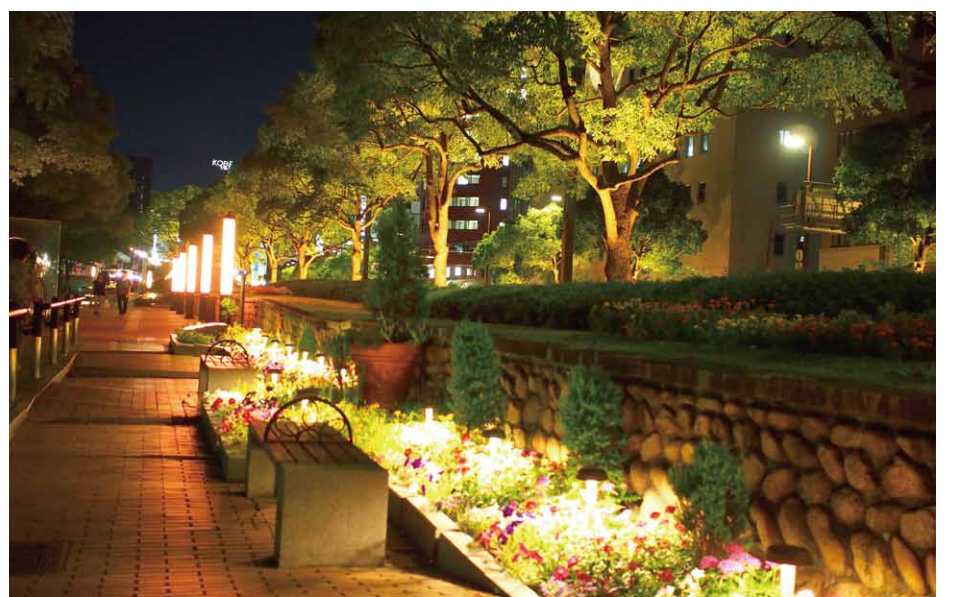
マンホールデザインコンテスト



街中で目にする下水道マンホールを市民の手でデザイン。2016年に開催し大好評だった「マンホールデザインコンテスト」の第2回目が開催されました。テーマは「わたしの好きな神戸」。応募総数85点の中から、「小中学生の部」「一般の部(高校生以上)」で、それぞれ最優秀賞(1作品)・優秀賞(2作品)を決定しました。また、最

優秀賞に選ばれた2作品のデザインを元に実際にマンホールを作成、中央区・垂水区に設置する予定です。

左.最優秀賞 一般の部 新谷 志津子さん
右.最優秀賞 小中学生の部 岡崎 天音さん



ごみの種類ごとに違う課題を市民に共有 家庭用ごみ袋デザインリニューアル

「ごみの10%削減」という目標に向け、市民一人ひとりの意識を変えてもらおうと、2017年夏から順次、指定ごみ袋を新デザインに切り替えています。例えば、燃えるごみの袋には目盛り線を入れ、「ごみの10%削減」という目標を可視化しました。間違っ

て分別されることので多いごみは、イラスト表記でわかりやすく。また、外国人居住者への啓発として全ごみ袋7か国語で表記して

左.燃えるごみ
右.容器包装プラスチック



紫色のものだけを売る「むらさき屋」 DV予防啓発キャンペーン

DV(ドメスティック・バイオレンス)の予防啓発を行っている団体「パープルアイズ」の協力を得て、イオンスタイルumie、イオンスタイル神戸南の売り場の一角に紫色の商品だけを集めたコーナー「むらさき屋」を設置しました。紫色はDV予防啓発のシンボルカラー。「なぜ紫色のものばかり集めているんだろう?」と目を留めてもらうことで、DVに関心を持ち考えるきっかけをつくりました。合わせて女子トイレを使った相談啓発も実施。「いつもメールをチェックされる。そんなのしんどくない?」などのコピーと相談室の電話番号をトイレトーパーに印刷し、潜在的なDV被害者にアプローチしました。



ファミリアのデザインが大好評 母子健康手帳のリニューアル

神戸での子育てが特別な時間になるよう、2017年10月、母子健康手帳を一新しました。神戸生まれの子供服ブランド「ファミリア」のデザイン。神戸らしいモチーフに人気のキャラクター、親から子どもへ引き継がれる絆を表現しました。紙面構成にもさまざまな工夫が。ママたちから「可愛い!」「使いやすい!」と大変好評をいただいています。



動画によるシティ・プロモーション① 神戸を舞台に若者たちが踊る kobebeatsプロジェクト

神戸の未来を担う若い世代が、自分たちのまちの魅力为全国に発信するプロジェクト。プロモーションムービーには、神戸開港150年の節目にちなんで総勢150名が出演してくれました。歌詞は、自分自身と神戸との関係性をスト

リーにしていくワークショップで出た神戸へのみんなの想いを言葉に紡いだもの。楽曲は神戸市在住のトラックメイカー<tofubeats>が担当。若者たちが市内のあちこちで躍動する映像には、息づく神戸の未来が映っています。



動画によるシティ・プロモーション② 須磨区の楽しさと魅力を発信 SUMA 1DAY TRIP!

四季やテーマごとに、須磨での「おでかけ」の1日を切り取る6つの動画を通じ、須磨の魅力を紹介する「SUMA 1DAY TRIP!~須磨のみりょくをさがす旅~」。須磨海岸・須磨アルプスなどロケーション抜群の自然から、須磨海浜水族園

や須磨離宮公園・総合運動公園など大人も子どもも大満足のレジャースポット、神社仏閣の Powerspot巡り、季節を感じる桜・紅葉巡りまで、須磨ならではの多彩な「1 DAY TRIP!」を紹介しています。



キリンビバレッジとの連携

障がい者事業所のデザイン支援

神戸市では障がい者が作る「ふれあい商品」(授産商品)の販売促進と商品力向上を支援し、障がいのある方より積極的な社会参加を応援しています。2017年度には、市内5か所の障がい福祉サービス事業所の商品力向上を支援。プロのデザイナー等と連携して商品開発に取り

組みました。また、公民連携事業の一環で、キリンビバレッジ(株)とのコラボレーションを実施。障がいのある方が描いた個性豊かな絵やイラストを使い、ペットボトル飲料の販売促進の景品「神戸開港150年記念オリジナル缶マグネット」を製作しました。



自然豊かな農村地域に新たな人を呼び込む

「神戸・里山暮らし」推進拠点の開設

北区や西区の農村地域も神戸の魅力。新たな人をこのエリアに呼び込むために「神戸・里山暮らし」を推進する取り組みを進めています。北区淡河町では、歴史的建物「淡河宿(おうごじゅく)本陣跡」を町の新たな魅力発信や交流の拠点として改修。「神戸暮らし」のトライアルサービスとして、神戸市が主催した『LIVE LOVE KOBE』でも、「神戸・里山暮らし」を体験する拠

点施設として活用されました。また西区榎谷町池谷地区では、築約100年の古民家を改修した農家レストランが2017年9月29日にオープンしました。

左. 西区榎谷町の農家レストラン
右. 北区淡河町の「淡河宿本陣跡」

大学生と企業で神戸の農水産物に新たな魅力を

にさんがろくプロジェクト



野菜・果物・米・花・肉・海苔…。「にさんがろく」は、多様な神戸の農水産物をもっとたくさんの人に知ってもらうためのプロジェクト。魅力ある農水産物と大学生のアイデア、企業のノウハウが出会い、「新たなものづくり」「若者・企業・農漁業者のネットワークづくり」が進んでいます。2017年は「外国人観光客向け(インバウンド)の商品やサービスの開発」をテーマに、市内8大学の大学生29チームが参加。グランプリには、神戸学院大学栄養学部の学生の「寿司スイーツ」(神戸産のエディブルフラワーの撫子を用いたお箸で食べるスイーツ)が選ばれました。



神戸港の魅力を活かした芸術祭 港都KOBEBE芸術祭

2017年9月16日から10月15日までの30日間、国内外で活躍する作家19組を招へいし、「神戸開港150年記念 港都KOBEBE芸術祭」を開催しました。テーマは、「時を刻み、豊かな広がりへ」。神戸港や神戸空港島にある突堤、係船杭、ターミナル施設などを舞台に、個性あふれる22の芸術作品の競演。神戸港の魅力を活かした芸術祭として人気を博し、11万人を超える来場者を迎えました。「海から観るアート」が今回の

芸術祭の最大の特徴。会期中、特別に運航したアート鑑賞船から、神戸のまち並みと六甲の山並みを背景に、時間や気候によって移り変わる海や風を感じながらアート鑑賞を楽しんでいただきました。

左.新宮晋「ウインドキャラバン」
右.古巻和芳「九つの詩片-海から神戸を見る」

下町とアートの融合 下町芸術祭



神戸の下町エリア・長田を舞台に、地元の約40の企業や団体、NPOが協力し、下町のくらしとアートが融合した独自の芸術祭を2015年から開催しています。第2回目となる2017年度は、5名のディレクターを迎え、5つの異なる方向性を持つ企画を展開。1ヶ月間で約2万人の方が来場されました。空き家や空き地、古民家、路地な

ど地域の魅力をアーティストやクリエイターが最大限に活用し、地域の持つ潜在力、可能性を試行しています。

左.空き地を活用した展示 photo©junpei iwamoto
右.商店街で披露されたダンス photo©junpei iwamoto



個性豊かな障がい者の作品に触れる機会 第7回 こころのアート展

「こころのアート展」は、障がい者がアート作品の展示を通じ、その活動の場を広げる美術展として、2011年から開催しています。2017年は県内から79名の応募があり、その中から10名の作者を選出。しあわせの村にて11月9日から11月30日まで約100点の作品の展示を行いま

した。約7,400人の来場者が作品の持つ力に圧倒され、作者の人柄、支援する方々の温かさに触れました。また、より多くの方にご鑑賞いただく目的で、2018年1月29日から2月2日まで神戸市役所1号館2階の市民ギャラリーで巡回展を開催しました。

中学生がつくった3カ条 スマートスマホ都市KOBEBE

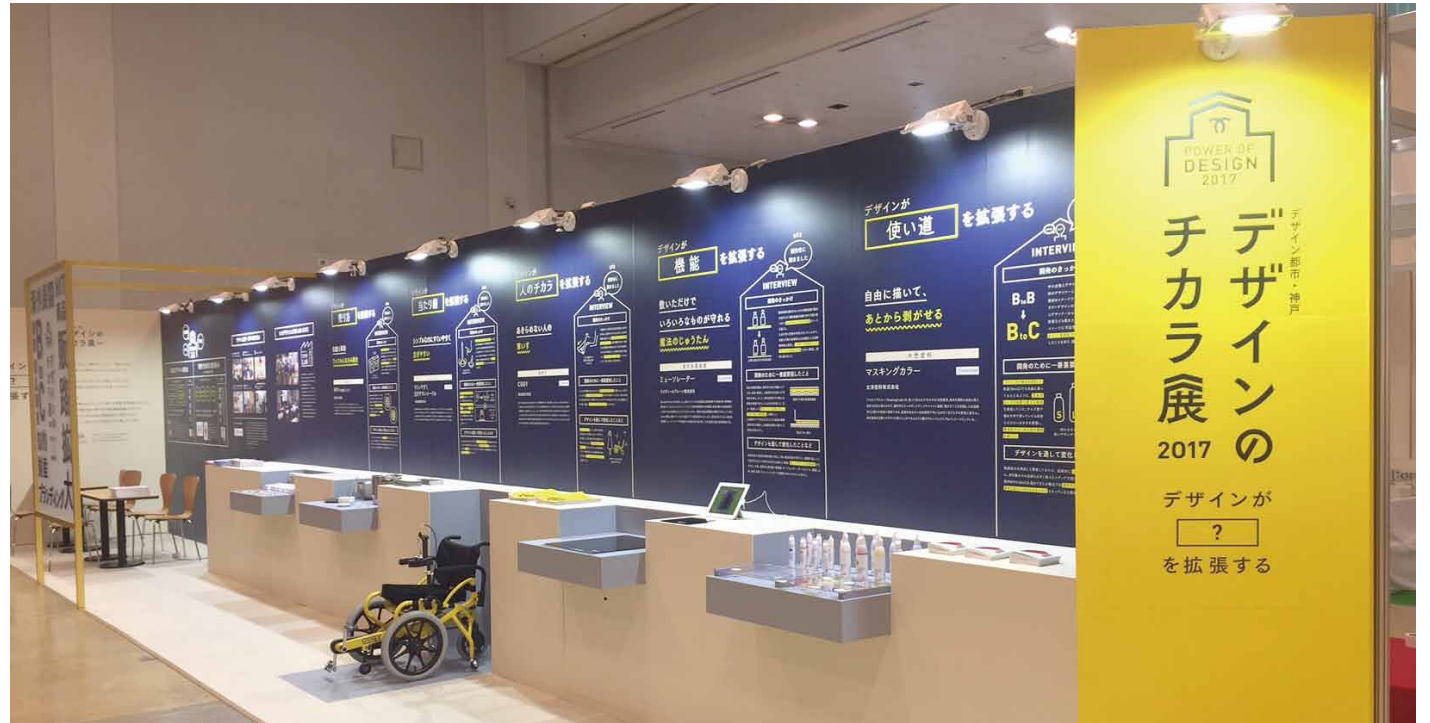
2017年8月27日に開催された「神戸市スマホフォーラム」。その中で、スマートフォン利用に関して、市内の中学生達が考えたキャッチコピー「スマートスマホ都市KOBEBE」とそれを実現するための3カ条が発表されました。スマートフォン依存やSNS上のトラブルなどを抑制し、健全にスマートフォンが活用され、生活利便性の向上や経済活性化につながる社会「スマートスマホ都市KOBEBE」。スマートフォンを取り巻く状況を把握するとともに、対応策や活性化策を推進しています。

上.中学生達が考えたスマホ3カ条
下.神戸市スマホフォーラム



デザインが
「」を拡張する
デザインのチカラ展

「国際フロンティア産業メッセ」で毎年開催している「デザインのチカラ展」。製品にデザインの視点を取り込むことで、新たな価値や可能性を引き出した事例を紹介しています。2017年は、グッドデザイン賞を受賞したプロダクトや神戸市の商品開発実践プログラム「ものデザインコラボLAB KOBE」で生まれた製品をピックアップ。企業へのインタビューを通じて、開発背景やプロセスも紹介する展示を行いました。(協力:公益財団法人日本デザイン振興会)



徹底した自社分析から商品企画を練り上げる
ものデザインコラボLAB KOBE 2017



商品開発実践プログラムで企業に革新を

「新しい商品を企画したい」「自社商品を見直したい」。そんなものづくり中小企業の「本気」を支援する商品開発プログラムです。講師として(有)CEMENT PRODUCE DESIGNの金谷勉氏を招き、徹底した自社分析、ターゲティング、コンセプト固めなどの重要性を学びながら、商品企画を練り上げました。これまでにプログラムを受講した第1期、第2期の参加企業は、実際に商品を開発し、展示会に出展するなどして販路開拓に取り組んでいます。



企業とクリエイターの交流イベント
CROSS



神戸市内の中小企業がクリエイター、デザイナーたちがつながる交流イベント。デザイン活用に取り組む企業とその担当デザイナーをゲストに招いたトークセッション、デザイン手法を学ぶワークショップなど、毎回趣向を変えたイベントを開催。デザインを活用する意義や効果を知ってもらうきっかけにもなっています。2018年2月には、東京で人気を博したMATERIAL

DESIGN EXHIBITION 2017をKIITOで開催。素材や加工技術を持つ企業とデザイナーが組んだ「技術や素材の見せ方」を楽しむ展示とトークショーを行いました。

左.2018年1月に開催したトークセッション
右.KIITOで開催した
MATERIAL DESIGN EXHIBITION 2017



神戸のものをづくりをアドバイザーが支えます 中小企業向けデザイン相談・知財相談

中小企業のデザイン活用を後押しするため、専門家にデザイン相談できる場を提供しています。2017年度は「神戸ものづくり中小企業展示商談会」や「国際フロンティア産業メッセ」において「KOBEDesign相談会」やデザイン活用をテーマにしたセミナーを実施しました。また、もの

づくりを進めていくうえで今や欠かせない「知的財産」についても相談会やセミナーを行いました。加えて、NIROものづくり試作開発支援センターでは、神戸芸術工科大学と連携し、中小企業に向けて随時助言・提案を行う「工業デザイン相談」を実施しています。

世界へ羽ばたく若手デザイナーの登竜門 神戸ファッションコンテスト2017

1974年、「神戸から新しいファッションの提案」をテーマにはじまった日本を代表するファッションコンテスト。これまでに110人もの留学生を海外のファッション系大学・専門学校へと送り出してきました。2017年度も5人が特選を受賞。海外校への留学が決まっています。



神戸のシューズを世界へ ファッションシューズコンテスト2018

1998年に始まったファッションシューズコンテストは、今年度20回目を迎えました。テーマは、「世界へ羽ばたけ！グローバルさを感じる神戸シューズ」。一般部門では、グランプリをはじめ10作品が入選の栄誉に輝きました。高校生・中学生・小学生の各部門では、最優秀作品1点と優秀作品を各3作品選出、あわせて合計12作品が入賞しました。グランプリ作品の「TSUNAGUTSU」は、20足を並べると円形となり足元から世界がつながるコンセプトと美しい意匠が高く評価されました。



一般部門グランプリ 根本 新大さん

神戸の職人たちの心と技がこの一冊に 写真集「神技」

神戸には実にさまざまな職人がいます。どの分野にもそれぞれ、優れた技能を持つ職人がいますが、一方で下積みが長い、上下関係が厳しいなどのイメージもあり、後継者不足の問題に悩んでいます。神戸市では、神戸市技能職団体連合会の協力を得て、神戸の職人の技術、職へのプライド、誇りが伝わるような写真集「神技(か

みわざ)」を制作しました。約30職種の職人を通じ、「神技」の魅力を発信、職人という仕事や生き方に憧れを持ってもらえるような作品になっています。

上.印章彫刻士
下.和菓子製造工



神戸スイーツを台湾に発信 KOBEMEETS TAIPEI

台湾からの訪日旅行者数が増えている中、より多くの方に神戸に興味を持ってもらえるよう、神戸の若手クリエイターが中心となって、神戸スイーツの魅力や食とものづくりの優れたデザインを発信するイベント「KOBEMEETS TAIPEI」を台北市で開催しました。神戸を代表するパティシエの高杉良和氏、「コム・シノウ」オーナーシェフ荘司素氏をはじめ、4名のパティシエが台湾を訪問。新作スイーツや台湾オリジナルの限定スイーツを発表・提供。台湾の方々へ神戸スイーツの魅力をアピールしました。





“創造と交流”の拠点「デザイン都市・神戸」のシンボル デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

デザイン・クリエイティブセンター神戸は、「デザイン都市・神戸」の創造と交流の拠点として、2012年8月にオープンしました。生糸(絹糸)の西日本の輸出拠点だった神戸生糸検査所をリノベーションしたこの施設は「KIITO(キイト)」の愛称で親しまれており、市民の創造性を育むイ

ベント、ワークショップ、さまざまなプロジェクトを通じ、クリエイティブな人材の交流と集積が行われています。2017年8月には開設から5周年を記念したトークイベント「創造の交差点」を開催。芹沢高志センター長をはじめとするスタッフと、これまで関わっていただいた皆さん

が、KIITOのこれまでとこれからのについて語りあいました。館内は、創造的活動のためのオフィス、貸会議室、約1,000㎡のホール、カフェなどに活用。歴史的建築物の保存・活用自体も高く評価され、2017年には長期の維持保全や優れた改修を実施した建築物を表彰する「第26回BELCA賞」のベストリフォーム部門を受賞しました。

上. KIITO外観 photo©Shunsuke Ito
下. 開設5周年を記念したトークイベント



クリエイティブな活動にふれるチャリティ・マルシェ KIITOマルシェ2017

KIITOマルシェは、クリエイティブラボの入居者や、KIITOの様々なプロジェクトと一緒に作りあげるクリエイターが、家族で楽しめるワークショップや商品・飲食の販売などを行うマルシェイベント。2017年も、KIITOホールに45店舗が並び、1日限りのお祭りを楽しみました。このイベントは、病気とたたかう子どもと家族の滞在

施設「チャイルド・ケモ・ハウス」の支援を目的としたチャリティイベントにもなっており、当日の売上の一部を同施設に寄付しました。

KIITOマルシェ2017 photo©Hiroto Ashida



クリエイターから技術や考え方を学ぶ ちびっこうべ学校

クリエイターと子どもたちが一緒に夢のまちをつくる「ちびっこうべ」は、KIITOを代表する体験型プログラムです。この関連企画として、子どもたちが、3つの分野のプロからその職能に必要な考え方や技術を学ぶ「ちびっこうべ学校」を開催しました。「食」のプログラムでは、大丸神戸店でふるまい言葉の違いなど接客の基

本を学び、1日限定のオープンカフェで実践。「建築」「デザイン」のプログラムでは、神戸アートビレッジセンターの協力で神戸のまちを散策し、クリエイターから学んだ視点でまちを観察しました。

ちびっこうべ学校 photo©Shinko Tsujimoto



「食」との新たな付き合い方を考える つなげる食のデザイン展～食べることから、はじまる～



料理人や酪農家、食品販売者など、さまざまな立場の“食の実践者”たちが、クリエイターたちとのコラボレーションにより自分たちの思いや未来を表現し、神戸のまちや生活を捉え直す展覧会。お店に並ぶまでの野菜の姿や、味覚の多様さに出会う展示など、知っているようで知らない「食」の話を、9つのテーマ展示と5回の

トークイベントで紹介。「食」との新たな付き合い方を考えるきっかけになりました。

左、「不便から生まれるコミュニケーション」関連トークイベント photo©Jotaro Sakashita
右、「牧場からはじまる、もう一つの未来」photo©Toshiki Katayama



社会課題を市民のチカラで解決 +クリエイティブゼミ

社会課題を「+クリエイティブ」なアプローチにより解決しようとする、市民参加型ゼミ形式のプログラム。社会人、学生など立場や意見の違うさまざまな人たちが、グループに分かれてのディスカッションを通じ、解決への方策を導き出すプロセスを学びます。2017年度は「デザイン編 観察のカガク」「高齢社会編 “風の人” になるための“種”の作り方を学ぶ実践ゼミ」「まちづくり(公園)編 まちの公園をみんなの場所にするためのプログラムを考える」などのプログラムを実施。「デザイン編 観察のカガク」では、アイ



デアを生み出す力になる観察についての基本的な考え方や、表現へと繋がる発見の方法を学び、「デザインのための観察力」を磨きました。



知っているようで知らない野菜のはなし 神戸「食」プロジェクト

「旬の野菜」をテーマに、広めるひと・栽培するひと・料理するひとの3組から、野菜について学ぶ「神戸野菜学」は、KIITO CAFEの運営パートナーである「はっばや神戸」と共にスタートしました。2017年度は、たけのこ(5月)、とまと

(7月)、さといも(9月)、きのこ(11月)、だいこん(1月)、たまねぎ(3月)をテーマに6回のセミナーを開催しました。様々な角度から野菜を学ぶことで、よりおいしく食べるための知識を深めました。

ストリート・フォトグラフィーの神髄 ロバート・フランク：ブックス アンド フィルムス,1947-2017 神戸

革新的な撮影術と独自の視点でストリート・フォトグラフィーを創始し、現代写真に最も大きな影響を与えたスイス出身の写真家、ロバート・フランク。そして世界の著名アーティストらが「世界一美しい本を作る男」と絶大なる信頼を置くドイツの出版人ゲルハルト・シュタイデル。このふたりが考案した国際巡回展を開催しました。

新聞印刷用のロール紙に作品を印刷し、天井から吊り下げるユニークな展示は、KIITOホールの大空間を余すことなく活用し、多くの方を魅了しました。

KIITOホールでの展覧会
photo©Takeshi Asano





アーティストの視点で神戸を見つめなおす KIITOアーティスト・イン・レジデンス

まちのリサーチや人々との交流に重点を置く作家を招へいし、KIITOを拠点に滞在制作を行う「KIITOアーティスト・イン・レジデンス」。神戸出身で、2000年以降は海外を拠点に活動する現代美術作家・石塚まこ氏を招へいし、春と秋に滞在制作を行いました。その報告として、彼女自身

がその活動の中で歩んできた道のりと、神戸のまちの文化との交差点を基軸に展開し、想像力を糧に「ここ」から世界のさまざまな人へ、社会へと窓が開き、つながっていく過程や可能性をたどる展覧会「ちいさな世界を巡ってみると」をKIITOの未活用空間を利用して開催しました。



廃材が子どもたちの ソウゾウ（創造と想像）力を育む こどもSOZOプロジェクト



「こどもSOZOプロジェクト」は、廃材を使ったワークショップを通じ、子どものソウゾウ（創造と想像）力と生きる力を育むプロジェクトです。革の端切れ、木片、プラスチックなど、市内の店舗や工場を回り集めたさまざまな廃材を素材に、子どもたちが自由な発想で形にしています。

ワークショップは毎月第2土曜とその翌日の日曜に定例で開催中。子どもの感性を磨く場であると同時に、廃材提供者である市内事業所や、市民サポーター、子どもやその家族たちが、廃材を通してつながる場として、ネットワークが育ちつつあります。



若手デザイナーの発掘と育成 神戸グラフィックデザインコンペ

「デザイン都市・神戸」では2017年度から新たに、39歳以下の若手デザイナーを対象にしたグラフィックデザインコンペを始めました。第1回目の今年度のテーマは「神戸を訪れる人々へのおもてなしの気持ちが伝わるデザイン」。プロのデザイナー、学生など全国から35作品が集まりました。最優秀賞受賞作品（杉中真由美さ

ん）は、神戸のメディアであるKiss FM KOBEの協力を得て神戸の玄関口・新神戸駅に掲出（表紙に掲載）。このコンペをきっかけに、一人でも多くの若手デザイナーが神戸に目を向け、関心を持つきっかけになればと願っています。

上.神戸市賞 藤倉 聖也さん
下.Kiss FM KOBE賞 森-温さん



2名体制で、ますます多様化する行政課題の解決へ 神戸市クリエイティブディレクター

「+design」の視点で市が直面しているさまざまな課題を解決するために、2015年6月からクリエイティブディレクターが就任しています。2017年度からは体制を2人に強化。市職員がデザインの視点で事業やサービス、広報を考えるためのアドバイス、職員研修、コンペの審査、デザイン都市の推進業務などを行っています。2017年度は、さまざまな部署から150件以上の相談に対応。施策の課題を掘り下げるワークショップを継続的に実施するなど、市のさまざま



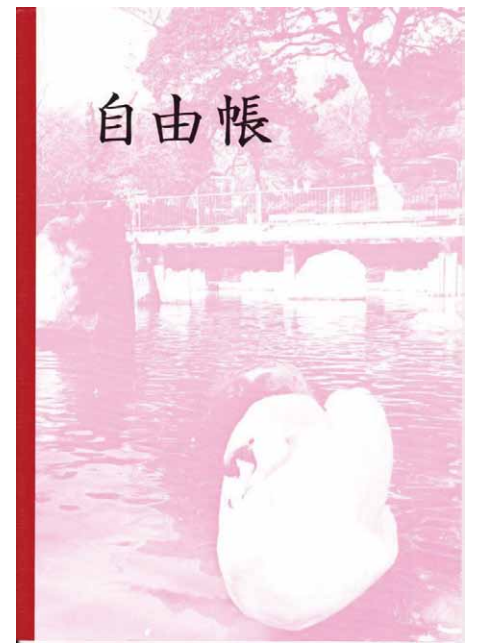
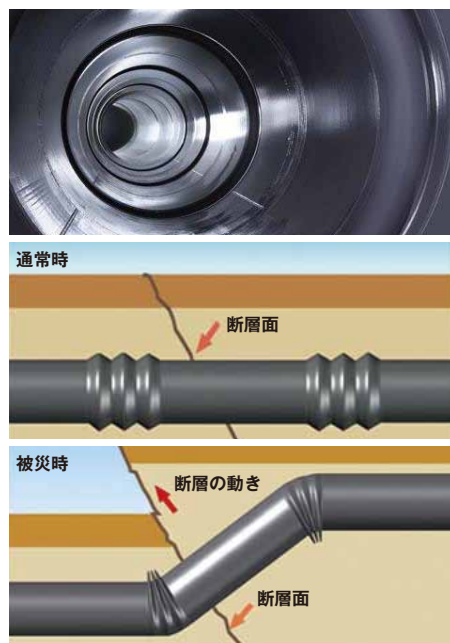
な部署をまたいで活躍できる存在として、職員の信頼を得ています。

いま気になるあの人とデザインの話しよう

雑デザインの雑談会

「雑デザインの雑談会」は、さまざまな分野で活躍中のクリエイターを神戸にお呼びして、こだわっていること、いま気になっているもの、自身のプロジェクトのエピソードなど、デザインというフィルターで雑多なお話を伺うトークイベントです。聞き手は、神戸市のクリエイティブディレクター・山阪佳彦氏。クリエイティブの可能性について、

また未来をつくるデザインについて、参加者同士が話し合い、交流を深める場にもなっています。今年度はプロジェクトプロデューサーの二本柳友彦氏やタイプディレクターの鈴木功氏、クリエイティブディレクターの永井一史氏、CMディレクターの中島信也氏、造形作家の乙幡啓子氏と多彩なゲストに神戸にお越しいただきました。



神戸市のデザインが快挙

グッドデザイン賞受賞～ちびっこうべ・断層用鋼管・神戸ノート～

GOOD DESIGN AWARD 2017

神戸市水道局の「断層用鋼管」と、KIITOの「CREATIVE WORKSHOPちびっこうべ」が2017年度のグッドデザイン賞を受賞しました。「断層用鋼管」については、水道管として初めて

の受賞となり、グッドデザイン賞審査委員が選ぶお気に入りの受賞デザイン「私の選んだ一品」にも選ばれました。産・官・学が連携して研究に取り組み開発し、神戸市水道局の大容量送

水管に使用されています。曲がるストローのような構造を持たせることで、地震などで断層がズレても亀裂しない水道管が完成。そのユニークな発想と、特殊な形状の水道管を作り上げた高度な技術が評価されました。「ちびっこうべ」については、特に優れた100点である「グッドデザイン・ベスト100」に選出。子どもの創造を大人がサポートするだけでなく、クリエイターである大人と子どもがお互いの良さを出し合って未来の街づくりを行うことに力点が置かれています。このインタージェネレーションによる共創体験を通じて自分一人では決してとどろけない成果を目の当たりにすることで、子どもたちに

創ることの奥深さまで体験させることができている点が高く評価されました。

また、戦後から約70年にわたり使用され、神戸っ子にとっては馴染み深い「神戸ノート」が、ロングライフデザイン賞を受賞しました。(ロングライフデザイン賞は、人々から10年以上に渡り長く支持され続け、今日までの暮らしの質を支える「すぐれたデザイン」を表彰する賞です。)

左.ちびっこうべ photo©Shinko Tsujimoto
中.大容量送水管に使用されている断層用鋼管
右.神戸ノート

次世代の創造的思考を育む取り組み

こどものデザイン思考ワークショップ

こどもたちの「創造的思考」を育てる取り組みとして、「課題解決型で新たなアイデアを生み出す思考法」として注目の「デザイン思考」を取り入れたワークショップを開催しました。2017年度は、六甲道児童館と夢野児童館の2か所で実験的に実施。六甲道児童館では「身近な困りごとを解決する道具を考える」をテーマに、夢野児童館では「掃除の未来を変える」をテーマに、身の回りの課題の発見や、プロトタイプ(試作品)作成などの「デザイン思考」のプロセスを体験し、アイデアを生み出し形にする楽しさを感じました。



左.夢野児童館
右.六甲道児童館



世界中の“創造都市”の連携・相互交流

ユネスコ創造都市ネットワーク

創造都市とは、文化産業の振興を通じ都市の活性化を目指しているまちのこと。ユネスコ創造都市ネットワーク（UNESCO Creative Cities Network = UCCN）は、そんな“創造都市”の連携・相互交流を目的とした世界ネットワークです。「文学」「映画」「音楽」「クラフト&フォークアート」「デザイン」「メディアアート」「食文化」の7つの分野ごとに、ユネスコ（国

連教育科学文化機関）が認定。神戸市は、2008年10月16日、「デザイン」分野で加盟認定されました。2017年10月に新たに64都市が認定され、現在180の都市（うちデザイン都市は31都市）が加盟しています（2018年3月時点）。神戸市ではこのネットワークやさまざまな交流事業を通じ、「デザイン都市・神戸」の魅力国内外に発信しています。

海外展示会で「デザイン都市・神戸」をPR

ユネスコ・デザイン都市合同展示会 “ARE YOU TALKING TO ME?”

2017年6月下旬～7月中旬、アンギャンレバン市（フランス）で開催されたユネスコ・デザイン都市合同展示会“ARE YOU TALKING TO ME?”に参加しました。同展では、スマートシティ、住まい、環境、健康の各分野に関わるIoTデバイスが展示されました。神戸からは、センサを活用して

トイレの空き状況を可視化するデバイス「IoTトイレセンサ」と、大気汚染状況によって傘の色や模様が変わる傘「INFOSCAPE」（プロトタイプ）の2作品を出展。この展示会は、ユネスコ・デザイン都市であるサンティエヌヌ市（フランス）でも巡回開催されました。



神戸の経験を世界に伝える

デトロイトデザインサミット

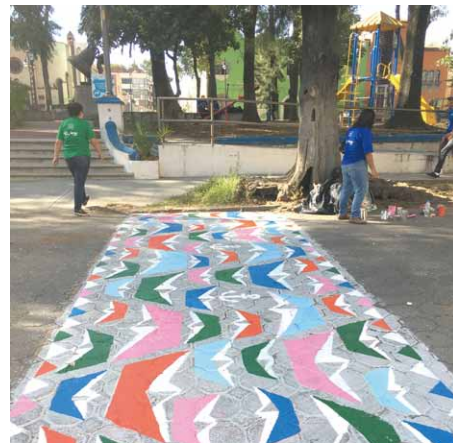
ユネスコ・デザイン都市であるデトロイト市（アメリカ）で2017年9月に開催された“Detroit City of Design Summit”において、「阪神・淡路大震災からの復興と都市デザイン」という

テーマでプレゼンテーションを行いました。ユネスコ創造都市ネットワークを生かして、神戸のデザインが持つ強みや経験を世界中の創造都市と共有し、相互の発展につなげています。

ユニークな横断歩道がまちを彩る

Cebratonプロジェクト

プエブラ市（メキシコ）で2017年11月に行われた“Cebraton”は、世界中のデザイン都市から横断歩道のデザインを募り、市内公園の周辺で、実際に車道にペイントするプロジェクトです。神戸市からは、海や山、風の色や風景を船の折り紙で表現したデザインが披露されました。



創造的な地域がつながり発展する関係づくり

創造都市ネットワーク日本（CCNJ）

CCNJは、国内外の創造都市・農村間の連携・交流を促進するためのプラットフォーム。個々に特長があり多様性のある地域が集まるこの全国的なネットワークを通して結びつき、相互に発展することを目指しています。長らく不況と大災害に直面した日本社会が、地域から創造的に

発展・再生するための新たな活力になること、さらには、アジアにおいて平和で共生的な創造都市ネットワークを構築する礎となることも期待されています。現在、102自治体、41団体が加盟（2018年2月時点）。神戸市は設立時より、幹事都市としてリーダーシップを発揮しています。

神戸市はユネスコに認定されたデザイン都市です
2018年10月、認定10周年を迎えます



BE KOBE

<http://bekobe.jp/>

「デザイン都市・神戸」の取り組みや情報を発信中

デザイン都市・神戸

